

# 関西現代俳句協会 俳句協定会報

No. 41

2012. 10. 1

どれくらいかというと、 3 3 3 3 3  
3 3 3 3 3 3 3 3

ああ、きりがいい。

などなど洒落のきいた短文が並び、頭の体操とばかり、ページを繰っているが、今回書き始めたのは

## 会長挨拶

関西現代俳句協会

会長 豊田 都 峰



たいへん気に入って、いつも側においてすぐペーτζを繰る本のひとつに、ルナル『博物誌』（新潮文庫・岸田国土訳）がある。

蝶

二つ折りの恋文が、花の番地を捜している。特に気に入っている一節である。

蟻

一匹一匹が、3という数字に似ている。それも、いること、いること！

長すぎる。蛇

を書くためであった。「蛇」に限らず、このように「蛇」の実相的把握をずばりしめされると、心に染みることが多くなったのは、其れなりの立場に立っているからであろう。

思えば、六年前、現代俳句全国大会を関西地区が担当、思い切つて会場を京都に設定、開催したが、それから早くも今回の設定で進行中である。募集は成果を挙げて終わったが、あとは多くの方々が当日お出でくださって盛会裏に開幕できるのを期するばかりである。

一五、二二二句集まりました。

第四十九回現代俳句全国大会実行委員会では、この半年近くの間、全国の会員並びに俳句愛好者の皆さんに大会への投句を呼び掛けて来ましたが、去る七月三十一日に投句を締め切ったところ、総投句数が一五、二二二句に達したと発表しました。目標数には若干及びませんでした。昨年、東北震災より僅か一年足らずの間、しかもその間には昨年十月に東京大会があったにもかかわらずのこの投句数です。ご協力頂いた全ての方々の俳句への情熱、協会行事へのご協力に敬意を表し、厚く御礼申し上げます。

# 関西現代俳句協会事業報告

平成23年7月1日～24年6月30日

会長 豊田都峰

## ◆忘年会&第三十六回句集祭

恒例の「忘年会&句集祭」を昨年十二月三日(土)に開催した。場所はJR大阪駅の構内にあるホテルグランヴィア大阪である。ここは来年初の全国大会開催予定の交通至便の場所にある。この日の参加者は八十名。



受付風景

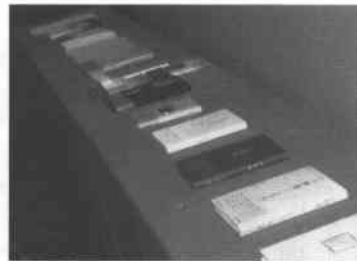
先ず句集祭に先だつて開催された理事會では、今秋東京で開催された全国大会からバトンタッチされた第四十九回「現代

## 俳句全国大会

出展された句集の一部

への参加及び協力が会長より列席の役員、顧問、理事の皆さんに要請された。

次いで恒例の第三十七回「忘年会&句集祭」



に移った。ここでは過去一年間に会員によつて著作された句集やエッセイ、評論集などが二十五点寄せられた。これは昨年に比べて、二倍強の増加であり、また今年は宇多喜代子顧問や、豊田都峰会長、吉本副会長からの出展もあり、最近になく多彩な句集祭となった。席上出展作品から自選した句がまとめてコンピュータで映写された。

## ◆平成二十四年度総会

過去三年間は総会と併せて関西俳句大会が開催されて、非会員である投句者の参加もあり会場を埋めたが、今年十月に大阪で現代俳句全国大会が開催されることになったため、諸条件を考慮の上関西の大会は一時中止とし、四月二十一日の総会は単独で行なった。

この関西現代俳句大会については、来年以降再開する予定である。今回は残念なことに豊田会長が急遽入院される事態となったので、挨拶等の行事には各副会長に代行をお願いした。特に理事会、総会とも中心議題は「大阪の全国大会を成功させよう」と言うテーマで一貫し、出席者に協力をお願いした。その他の議題として出した昨年度の事業報告及び決算、来年度の事業計画やそれに付属する予算案は原案通り可決された。

総会では特に関西から出て六年間全国の会長を務められた宇多喜代子顧問が協会の存在を全国に輝かされ、任期満了の上宮坂静生新会長に滞りなくバト

宇多前会長へのねぎらいの花束（贈る小泉副会長）



インタツチされ  
た。この席上でご挨拶を頂いたあと、懇親会で小泉副会長か

#### ◆各部活動・会員動静について

●昨今は青年部の活動が活性化している。この動きは事務局としても協会の将来性にかかわるものと高く評価し、協力を惜しまないものである。青年部としても日頃の句会・吟行・講演活動はつとに活発化してきているが、これに併せて十一月には京都で「青年部全国シンポジウム」が開催されることが決定した。詳しい内容はいづれ青年部からお知らせがあるが、この機会に青年部メンバーが

一層増加し団結を深められるよう期待している。

●広報部の活動については、年一回十月に発行する『関西現代俳句協会会報』も本号で四十一号を数える。本会会報の発行はせめて年に二回程度に増加したいところではあるが、残念ながら郵送費が高く、予算の都合上俥にならないのは誠に残念である。

これを補完する形で「ホームページ」を設置し、報告やお知らせをし、会の動静等の記事も絶えず更新している。パソコンをお持ちの会員はぜひご覧いただきたい。その他結社紹介や会員の新作の作品集も事務局に送られてきたものはホームページに必ず掲載し、紹介に努めている（七頁参照）。この様にきめ細かい編集を行なっている結果、今や会員はもとより全国の俳句愛好者にとっても大きな情報源となり、結社紹介についてはこれを見た全国の俳句愛好者から入会の希望が事務局に寄せられ、事務局としてもその方の希望を叶えつつ、それ

ぞれの結社に紹介の労をとっている。関西の会員数は、残念なことに死亡や高齢退会等で現在一千名の大台を割ったが、これからも本部の応援のもとに、その回復に取り組んでいくつもりである。これには会員の協力が欠かせないので、会員一人一人がお友達を一人でも誘って頂ければと期待している。

#### ◆第四十九回全国大会への取り組み

全国大会は六年ごとに関西の担当が予定されているので、一昨年の北九州大会が終わった時点で事務局を中心に準備をスタートさせていたが、いよいよあと一年を切る時期に迫った現在、準備は一段と活発化した。

年明け早々より本部事務局のご協力を頂きながら、一般及び特別撰者の選定を行ない、これをもとに「投句用紙」を作成し、全国の役員、会員以外にも昨年投句して頂いた非会員の皆さん方にも投句用紙の配布を行なった。これは四月及び七月初旬にかけて二回にわたって行い万全を期するものである



選者の皆さん紹介

が、その間地元結社にも手分けしてきめ細かい配布を実施した。何しろ二万句獲得という大目標が掲げられた上は何としてもこの数字に肉迫しなければならぬので、事務局としても関西の実行委員に委嘱された顧問・役員・理事の皆さんのお力を頂きつつ更に行動を重ねていきたい。

(尾崎青磁)

## 事務局便り①

### 「この一年、青年部の活動とシンポジウムへの期待」

いつも青年部の活動にご理解、ご協力を頂きましてありがとうございます。この一年の活動は次の通りです。

#### ◇平成23年

10月 勉強会「西東三鬼の『声』を聴く」(場所・柿衛文庫、ゲスト・木村澄夫氏、宇多喜代子氏)

11月 吟行句会(場所・暗峠(奈良)、ゲスト・茨木和生氏(「運河」主宰))

#### ◇平成24年

2月 句会(場所・柿衛文庫、ゲスト・久保純夫氏)

4月 吟行句会(場所・芦屋川く虚子記念文学館、ゲスト・久保純夫氏)

6月 青年部会報第11号発行(前年4月からの活動をまとめ、60歳までの関西協会員に送付)

7月 句会(場所・鈴鹿野風呂記念館(京都)、ゲスト・豊田都峰会長)

以上です。さて、今後の予定としては11月17日(土)、京都・和順会

館にて第23回青年部シンポジウム「洛外沸騰—今、伝えたい俳句 残したい俳句—」を開催いたします。詳細は同封のチラシをご覧ください。

青年部シンポジウムはこのところ、東京での開催が多かったのですが、関西では実に十年ぶりとなります。

昨秋に本部青年部長から開催を打診された際、東京一極集中に近い青年部の活動状況をなんとかしたいと考え、開催に踏み切りました。

関西青年部の有志11名が実行委員となり、昨年12月より月に一度の打合せをし、日々はグループ・メールで意見交換をしています。

パネリストとして、新進気鋭の俳句研究者・青木亮人氏をはじめ、協会内外から若手俳人が集結します。

今回のシンポジウムは、協会に関係なく関西で俳句に関わっている人が集まることのできる場にしたというのが、我々実行委員の共通の思いです。

青年部かどうか、協会員かどうかは問いません。ぜひ皆様、ご参加頂きますようお願いいたします。

(青年部長 杉浦圭祐)

# 新会員の一句

今年度、現代俳句協会にご入会された皆さんから、一句ずつお寄せいただきました。(到着順)

- 默禱の一分長し不如帰  
あなたへの呪文無花果煮つめつつ  
蝉しぐれ爺西向きてすまんなあ  
夏木立風静謐に返す袖  
梅雨晴れや、心霊スポットはこの辺り  
雑然とブイの積まれて晩夏光  
梶の葉蓋に今朝の収穫のぞきおり  
煩悶の身から出たさび百日紅
- 海程 木本 康雄  
海程 黍野 恵  
海程 小川 佳芳  
海程 東 祐子  
しぐなる 吉村 艶子  
獅林 松島 圭伍  
海程 鈴木 玲子  
大屋俳苑 小畑 佐夫
- しのお日月(交野市) 重松敬子(宝塚市) 高橋宏子(神戸市)  
田中昌子(京都市) 種田果歩(京都市) 谷口あい(奈良県生駒郡)  
中川鏡子(堺市) 野上典子(三木市) 終ひろこ(大阪府)  
日秋英子(神戸市) 村上友一(大阪府) 桂凜子(神戸市)  
荒木さくら(堺市) 太田順子(神戸市)
- 敬称略・順不同  
(事務局)

## 今年から協会の役員が変わりましたー

新会長に宮 坂 静 生氏

六年もの長きにわたって、現代俳句協会を会長として牽引して来られた宇多喜代子顧問が、去る三月二十四日東京上野の東天紅で開催された、現代俳句協会総会の席上において任期満了で退任された。六年間の全国の協会での催事やマスコミでのタフな活躍ぶりは、俳壇に現代俳句協会の名を広めるに十二分の効果があった。関西を本拠とされる宇多顧問の今後のご活躍に大いに期待したい。長年のご尽力に改めてお礼を申し上げるものである。

この人事異動に併せて、協会の役員も大幅に入れ替えられた。四月以降この現代俳句協会を運営する新陣容をご紹介しておきたい。(関係筋のみ)

会長	宮 坂 静 生	(新)
副会長	長 長 会	(新)
幹事	長 事	(新)
特別顧問	宇多喜代子	(新)
顧問	伊幸智青秀成	(新)
名譽会員	道 子 子	(新)
	彦 朗 峰	(新)
	樹 三 悟 都	(新)
	和 佳	(新)
	朗 郎 子 磁 恭 子 均 子	(新)
	智 太	(新)
	喜 代	(新)
	丹 田 田	(新)
	谷 谷 山	(新)
	伊 和 豊	(新)
	瀧 花 丸	(新)
	本 生 田 崎 場 田 鹿 多	(新)
	吉 室 森 尾 的 吉 鈴 宇	(新)
	子 坂 下 中 井 西 藤 野 田	(新)
	兜 静 草 不 谷	(新)
	瑠 璃 ム	(新)
	太 生 子 鳴 子 篤 子 才 弘	(新)
	城	(新)

# 「列島春秋」について―

(地区別現代俳句歳時記)

『現代俳句』に毎号掲載されている「列島春秋」は、開始以来好評を得て継続されています。毎号、北海道から沖縄までの気候、風土、伝統行事、方言など地域色豊かな各月の一句をその土地土地の生活実感に基づいた月の一句として依頼しています。

「春秋余滴」では、地域色豊かな用語の解説文と写真が掲載されており、特に四月号では、列島の「桜の句」が紹介されています。

## 「桜の句」より

振り向けば知命のさくら端然と  
さくら咲き故人ばかりが夢に現る  
寺一つ押し上げてゐる桜かな  
針を振り切らんばかりの桜かな  
蔵に仕舞う亡父の一生桜咲く  
夕桜息ある貝を籠の中  
先頭は乗り上げてゐる花筏  
一本気な桜だ昭和のままで咲いている  
松平なにがしといひ桜守  
その奥のあやしさ思う山桜  
花冷えの寺放哉の声を聞く

青森 千葉みちる  
岩手 小菅 白藤  
福島 鈴木満喜子  
埼玉 瀧 洋子  
千葉 石井紀美子  
神奈川 宇佐美輝子  
富山 森野 稔  
静岡 山田智津子  
愛知 武藤 紀子  
兵庫 原 尚子  
鳥取 松島美佐子

車座のみんなさくらになつてゐる  
夜桜や人間臭い貌でいる  
光秀の無念の白き桜かな  
列島の地図が好きです桜咲く  
花ふぶく万葉仮名の空となり

岡山 木村ゆきこ  
山口 片山 放魚  
高知 酒井 和光  
宮崎 鈴木 康之  
鹿児島 肥後 洋子

依頼先ですが、現代俳句協会入会者の多い地区と少ない地区があり、原稿依頼には苦慮しています。依頼先は結社単位か個人への依頼となつており、出来るだけ多くの方にご参加いただけるようにと思ひます。

(桑田和子記)

## 現代俳句協会のホームページも利用しましょう

現代俳句協会は俳句に関する様々な活動を行なっていますが、特に最近ではインターネット句会や、ジュニアネット句会などパソコンを使った活動が活発です。その中でも注目されるのが「現代俳句データベース」の存在です。ここに収録されている句は九月現在、三四七四五句、収録作家数は四六〇二人。会員の句も順次収録する予定とか、いまも活発に収録作業は続けられています。季語別、作者別など索引も便利です。

四六〇〇人と云えば、古今の俳人は相当数網羅されているはずですから、ご自分のデータベースとして大いに活用されては如何でしょう。

## 関西現代俳句協会ホームページの紹介

この会報において、ホームページの状況をその都度紹介しておりますが、パソコンを使用されない方には、ご理解困難な点もありますので、その内容をご紹介します。関心のある方は事務局までお問い合わせください。開設は2004年です。  
(広報部)

記

### 1、トップページ：今月のエッセイ

- ①2005年1月スタート、2012年9月分を掲載中、会員によるエッセイと俳句。(バックナンバーもご覧下さい)
- ②入会手続きと案内、問い合わせ先。

### 2、新着情報

- 協会情報と会員の作品(句集など)の掲載と案内/2004年12月のホームページ開設以来の協会情報及び句集(協会受付分)などの紹介。掲載中は2012年9月分。

### 3、協会の概要

- ①関西協会の略史、協会会報の全頁紹介(32号～41号)
- ②活動内容、講演会、全国大会、忘年会&句集祭、関西俳句大会(1～3回)、府県巡回吟行会、役員構成

事務局の所在

### 4、結社紹介

- 50音順 ②府県別/いずれも結社名、主宰・代表、所在地、発足年月(登録のある46結社の紹介、届けにより随時更新あり)

### 5、会員の著作

- 2004年のホームページ開設以降、2012年現在まで、会員より事務局に届けられた句集、エッセイ等作品集の紹介。

### 6、イベント案内

- 協会主催の各種イベント、シンポジウム、全国大会、当の詳細紹介。

いずれも2004年から2012年までの分。

- ①忘年会&句集祭(毎年12月)
- ②各府県巡回吟行会(5府県にて実施)
- ③総会(毎年4月末実施)
- ④関西俳句大会(総会と同時開催、3回実施)
- ⑤全国大会(2006年、2012年実施)
- ⑥現代俳句講座(1回実施)
- ⑦五七五の世界講座(4回実施)
- 7、青年部ホームページ
- 11月17日開催の第23回シンポジウムについて詳細のお知らせ。

# 平成23年度 決算報告書

(自・平成23年4月1日～至・平成24年3月31日)

平成24年4月21日

関西現代俳句協会 (単位：円)

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
前期繰越金	1,968,479	総会費	769,100
本部交付金	1,922,000	会議費	91,920
総会費	600,000	俳句大会費	478,396
俳句大会投句料	1,024,000	句集祭	907,212
句集祭参加費	553,000	青年部活動費	84,780
寄付金 丸山 佳子様	50,000	印刷費	351,882
寄付金 宇多喜代子様	10,000	事務費	96,623
雑収入	0	通信費	418,259
		交通費	120,350
		役員手当	538,000
		ホームページ費	26,053
		雑費	77,805
		次期繰越金	2,167,099
合計	6,127,479	合計	6,127,479

収入 6,127,479円 - 支出 3,960,380円 = 2,167,099円

残金 2,167,099円は次年度へ繰り越します。

会計 村田 あを衣 印

平成24年4月21日

上記の通り、適正に処理されたことを認め、報告いたします。

会計監査 川村 祥子 印 橋場 千舟 印

# 平成24年度 予算

(自・平成24年4月1日～至・平成25年3月31日)

平成24年4月21日

関西現代俳句協会 (単位：円)

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
前年度繰越金	2,167,099	総会費(会場費・懇親会費・その他)	800,000
本部交付金(本年度会員数 950人)	1,900,000	会議費(諸会議費)	100,000
総会費(懇親会費)	400,000	句集祭(会場費・懇親会費・その他)	700,000
句集祭参加費(懇親会費)	400,000	青年部活動費(講演会・句会・その他)	200,000
青年部活動費	50,000	印刷費(会報・封筒代・その他)	300,000
		事務費(事務用品)	100,000
		通信費(郵送料・電報電話代・その他)	400,000
		交通費	100,000
		役員手当	550,000
		ホームページ費	50,000
		雑費(慶弔費及び消耗品代)	50,000
		次期繰越金	1,567,099
合計	4,917,099	合計	4,917,099



□ 経理部からのお知らせ

今年も四月末の総会が無事終了し、お蔭さまで決算報告も監査役始め理事会、総会にて無事ご承認いただき有難うございました。一昨年の決算に比べて相当の余剰金を出すことが出来、ほっとしています。これは小さく縮こまっても何も活動せず残したというような余剰金ではなく、寧ろ三年前から始めた「関西俳句大会」の活動が生み出したものです。回を重ねるごとにこの大会は徐々にですが参加者も投句数も増えたことに由ります。従って今後も関西現代俳句協会の大きな活動の柱にしたいと考えておりましたが、ご承知のように今年協会の年に一度の大イベントである「現代俳句全国大会」の当番年に当たっております。しかしながらこの二つの大会を並行で行うことは関西の会員にとって大きな負担となり、

事務局としても処理不可能の事態に陥るため全国大会を優先し、関西大会は来年以降に延期することと致しました。

経理面から言いますと、関西の財政上続けている再開が望ましいのは言うまでもありませんが、会員の負担も考えますと、再開時期は検討を要します。一つ言えることは協会の運営面から申し上げると、近いうちに「第四回関西現代俳句大会」が開催出来ればいいのですが…。

それはさておいて十月の「第四十九回現代俳句全国大会」は皆様のお力も頂いて成功させたいものです。

(経理部長 村田あを衣)

● 協会にはこんな賞があります

現代俳句大賞・現代俳句協会賞・現代俳句新人賞・現代俳句評論賞・現代俳句協会作品賞、この五賞のうち新人賞、作品賞、評論賞は全国大会の席上で贈られます。今年は大阪の大会で何方がこの栄誉を受けられるでしょう。

謹 悼

平成二十三年十一月一日より、本年四月末までの期間中に、現代俳句協会において受け付けたご逝去会員のお名前をお知らせし、謹んでご哀悼申し上げます。

記

- 大橋 辰三 (大津市・龍泉 平成二十三年十一月)
- 魁 たけし (大阪市 平成二十三年七月)
- 加藤 章三 (京都市・藍 平成二十三年七月)
- 久保るみ子 (京都市・藍 平成二十四年二月)
- 公文 弘子 (京都市・藍 平成二十四年二月)
- 境 素朋 (京都市・藍 平成二十四年四月)
- 佐野 美栄子 (京都市・藍 平成二十四年四月)
- 杉村 正子 (京都市・藍 平成二十四年五月)
- 高木 智 (京都市・藍 平成二十四年五月)
- 竹村 文一 (京都市・藍 平成二十四年五月)
- 立田 順子 (京都市・藍 平成二十四年五月)
- 箱井 幸子 (京都市・藍 平成二十四年五月)
- 藤本 幸四郎 (京都市・藍 平成二十四年五月)
- 牧野 比呂彦 (京都市・藍 平成二十四年五月)
- 松本 昌平 (京都市・藍 平成二十四年五月)
- 門 青鬼子 (京都市・藍 平成二十四年五月)
- 和田 謹次 (京都市・藍 平成二十四年五月)
- 和辻 典子 (京都市・藍 平成二十四年五月)

注：協会受付順

( )内は退会年月、敬称略

平成二十四年〇月〇日

関西現代俳句協会

# 大阪俳人クラブへもご参加 下さい!

大阪俳人クラブ事務局長

鈴鹿 呂仁

大阪俳人クラブは、現代俳句協会・俳人協会・伝統俳句協会の三協会に所属する会員の方々と、無所属の個人の方とで構成されており、昭和五十年に設立されている。

個々の会員は、大阪府及び関西を中心に活躍している俳人たちで、相互に協力しながら俳壇の発展に寄与し、講演会・吟行俳句大会等により俳句の研鑽に努めることを目的としている。

平成二十三年度から豊田都峰（京鹿子）氏が会長となり、四年間務めることになっていく。現代俳句協会の皆さままで未だ入会されていない方は、この機会に是非ご入会を願います。現代俳句協会の力を結集していきたいと思っておりますので、ご協力お願い致します。

**\*お問い合わせは左記事務局へ**

〒六〇六-八三三三

京都市左京区吉田中太路町八一

京鹿子社 野風呂記念館内

大阪俳人クラブ事務局

電話 ○七五-七五二-一六一七

ファクス ○七五-七五二-一六一八

## 関西の今年度の行事目標

今年四月開催の総会において承認された一年間の事業計画は次の通りです。

### (1) 全国大会の開催

(十月二十七日、大阪梅田の

ホテルグランヴィア大阪)

応募句の発表と表彰及び協会

各賞の表彰。

金子兜太名誉会長の講演。

演題「関西と俳句ー思い

出を込めて」

### (2) 青年部シンポジウムの開催

(十一月十七日、京都東山・

和順会館)

### (3) 「忘年&句集祭」の開催

(十二月一日、ホテルグラン

ヴィア大阪)

### (4) ホームページの充実、青年部の

の句会、吟行会開催など。

### (5) 新会員の勧誘と獲得

## お友達を会員に推薦して下さい

いま、俳句愛好者は少なくなっています。これは現代俳句協会だけでなく俳句の結社や俳壇においても同じ傾向にあります。その原因の一つが若い俳人が生れないこと、また高齢化による退会などであり、その一方で協会に入会したい方もあり、協会への新入会申し込みも続いています。

新入会者があっても退会者も跡を絶たない、そんなイタチごっこめいた現状を超えるため、事務局では以前から会員一人が、お友達を一人会員に推薦して頂く呼びかけをしています。事務局に申し込んで頂ければ用紙をお送りしますので、あなたも推薦人になって下さい。手続はこちらで致します。俳句は心の通うお友達と一緒に愉しく作りたいですね。

\*七月以降に入会されると「後期入会者」として、初回の年会費は半額になります。

## 関西現代俳句協会

会報・第四十一号

発行・平成二十四年九月二十日

発行人・豊田 都峰

編集人・尾崎 青磁・前田 霧人

事務局

〒六〇一-〇〇一四

宇治市明星町二六一-一 尾崎方

TEL/FAX ○七七四-二三一-四五九